エコアクション21
認証番号 0001494

令和５年度

［期間：令和５年４月～令和６年３月］

環 境 経 営 レ ポ ー ト

福岡クロス工業株式会社

九州工場

令和６年７月 31 日

URL: http://www.fukuoka-cloth.co.jp

目　次

１．組織の概要　２頁

1-1.事業所紹介
1-2.代表者及び環境管理責任者（担当者）
1-3.事業の内容
1-4.事業年度
1-5.事業の規模
1-6.対象範囲

２．環境経営方針　３頁

３．環境経営目標　４頁

４．主な環境経営計画　４頁

4-1.二酸化炭素排出量削減活動内容
4-2.廃棄物排出量削減活動内容
4-3.給水量削減活動内容
4-4.化学物質排出量削減活動内容
4-5.環境負荷軽減製品の開発活動内容

５．環境経営目標の実績　６頁

６．環境経営計画の取組結果とその評価　６頁

6-1.二酸化炭素排出量の削減
6-2.廃棄物排出量の削減
6-3.給水量の削減
6-4.化学物質排出量の削減
6-5.環境負荷軽減製品の開発

７．次年度の環境経営目標及び計画取組内容　８頁

８．環境関連法規等への違反、訴訟等の有無　８頁

９．代表者による全体評価と見直し・指示　８頁

１０．地域社会との環境保全協同活動　９頁

１．組織の概要

1-1. 事業所紹介

○本社（福岡営業所）　〒812-0014　福岡県福岡市博多区比恵町 9-4
○東京営業所　〒173-0026　東京都板橋区中丸町 55 番 3 号 104
○大阪営業所　〒541-0046　大阪市中央区平野町 2 丁目 2 番 8 号 603
○九州工場　〒842-0062　佐賀県神埼市千代田町柳島 620 番地

1-2. 代表者及び環境管理責任者(担当者)

代表者名　専務取締役 ・統括責任者　小柳　茂直
環境管理責任者　管理本部部　参与　中山　信
（連絡先）
TEL：0952-34-6070　FAX：0952-34-6071
E-mail：kyusyu@fukuoka-cloth.co.jp

1-3. 事業の内容

織物及びプラスチック製品（ゴム布テープ、ゴム引不織布テープ、等）の設計・開発及び製造

1-4. 事業年度

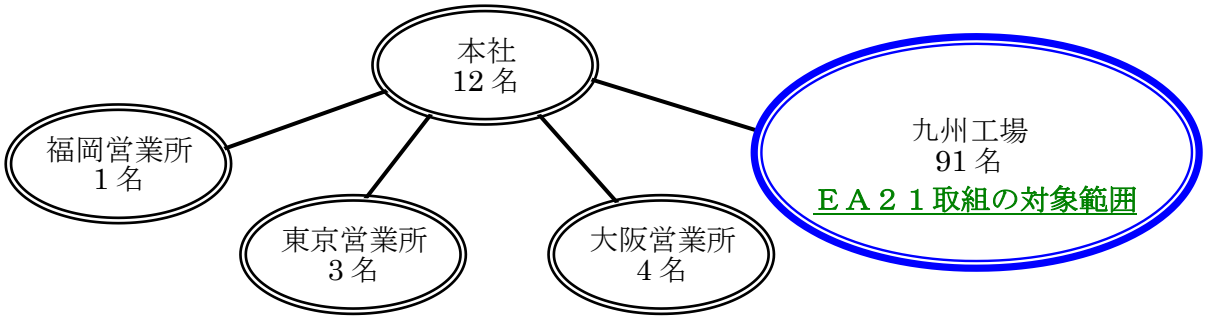
４月～翌年３月

1-5. 事業の規模

	単位	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
売　上　高	百万円	２，５６８	３，０７９	３，３３４
従 業 員 数	人	９２	９３	９１
床　面　積	㎡	１０，５５７	１０，５５７	１０，５５７

1-6. 対象範囲

ＥＡ２１取組は九州工場を対象としている。（サイト認証）



２．環境経営方針

環　境　経　営　方　針

基　本　理　念

私達はあらゆる行動において、自然を大切にし、地球環境の保全に努めます。

行　動　指　針

１．製品の開発・生産及び流通の各段階において、資源・エネルギーの使用が環境に影響を及ぼすことを常に考慮し、環境汚染の防止に努めるとともに、環境経営システムと環境保全の継続的な改善を図ります。

２．企業活動に関わる環境関連法令、自治体との協定及び業界の規範を順守します。

３．次の事項を省資源・省エネルギーの重点的なテーマとして、環境保全活動を推進します。

（１）二酸化炭素の排出量削減
（２）廃棄物の発生削減とリサイクル化
（３）水使用量の削減
（４）化学物質使用量の削減，特に有機溶剤ガスの大気排出削減
（５）環境負荷軽減製品の開発

４．行政機関・団体などの環境保全施策に協力すると共に、地域社会の環境保全活動へ積極的に参画し、社会貢献活動を推進します。

５．環境教育・訓練、社内広報の実施により、全ての従業員に環境経営方針を周知徹底し、環境保全への意識を高め、全員参加の環境保全活動を推進します。また、関連会社へ環境保全の協力を依頼します。

６．この環境経営方針は、社外にも公開します。

制定日：平成１８年７月１５日
改訂日：令和　１年５月２５日

福岡クロス工業株式会社　九州工場
専務取締役統括責任者　小柳　茂直

３．環境経営目標

当社は、３ヵ年毎の計画としている。令和５年度及び中期３ヶ年の環境目標は次の通りである。目標の基準値は、令和２年度の実績値とし、( ) 内は基準値に対する削減率を示す。なお、廃棄物排出量の削減目標については、加工ロスが多い且つスポット受注である開発品の排出量を補正数量として差し引いた値を令和３年度より目標値としている。

項　　目	単　位	基　準	目　　標		
		R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO_2/m	0.170	0.168 以下 (1.0%減)	0.167 以下 (2.0%減)	0.165 以下 (3.0%減)
廃棄物排出量の削減	トン/１万m	0.0950 (R3 年度)	0.0950 以下 (—)	0.0941 以下 (1.0%減)	0.0931 以下 (2.0%減)
給水量の削減	m^3/8hrs	0.272	0.269 以下 (1.0%減)	0.267 以下 (2.0%減)	0.264 以下 (3.0%減)
化学物質排出量の削減	トン/１万m	0.193	0.191 以下 (1.0%減)	0.189 以下 (2.0%減)	0.187 以下 (3.0%減)
環境負荷軽減製品の開発	—	—	環境負荷軽減品の設計変更の検討１件以上	環境負荷軽減品の設計変更の検討１件以上	環境負荷軽減品の設計変更の検討１件以上

①二酸化炭素排出量における電力の二酸化炭素排出係数は 2019 年度実績九州電力調整後排出係数「0.000370 t-CO_2/kWh」を使用した。
②廃棄物排出量削減の対象は、廃プラ（熱回収利用）とする。
③給水量の削減活動の対象は、上水とする。
④化学物質の削減の対象は、有機溶剤ガスの大気排出量とする。
⑤環境負荷軽減製品の開発は、環境負荷軽減製品への設計変更を検討した段階でのカウントとする。
⑥廃棄物排出量は、スポットで生産した新規製品を差引した数値を見直し R3 年実績値より差し引いた数値を基準にて算出する。

４．主な環境経営計画

4-1. 二酸化炭素排出量削減活動内容［担当部署：製造・保全管理］

電気使用量の削減	重油使用量の削減
休憩室空調の不在時停止徹底	溶剤回収装置の効率的稼働
スポットエアコンの不在時停止徹底	生産性向上活動(時間短縮への取組み)
除湿室エアコンの ON/OFF 管理	生産計画の効率的稼働(集約化、停止)
1～4 棟遮熱塗料塗装	再加工の削減
昼休みの消灯徹底	蒸気漏れの点検、改修
稼働停止エリアの水銀灯消灯徹底	
設置照明の LED 化	
生産計画の効率的稼働(集約化、停止)	
再加工の削減	

4-2. 廃棄物排出量削減活動内容［担当部署：製造］

熱回収利用廃プラ排出量の削減
不良対策の実施
プラスチックの分別，リサイクル化の推進、処理業者の調査

4-3. 給水量削減活動内容［担当部署：製造・保全管理］

上水給水量の削減

節水意識の高揚
クールクリーンファンの稼働調整の検討、実施
水漏れの改修
配管破裂予防

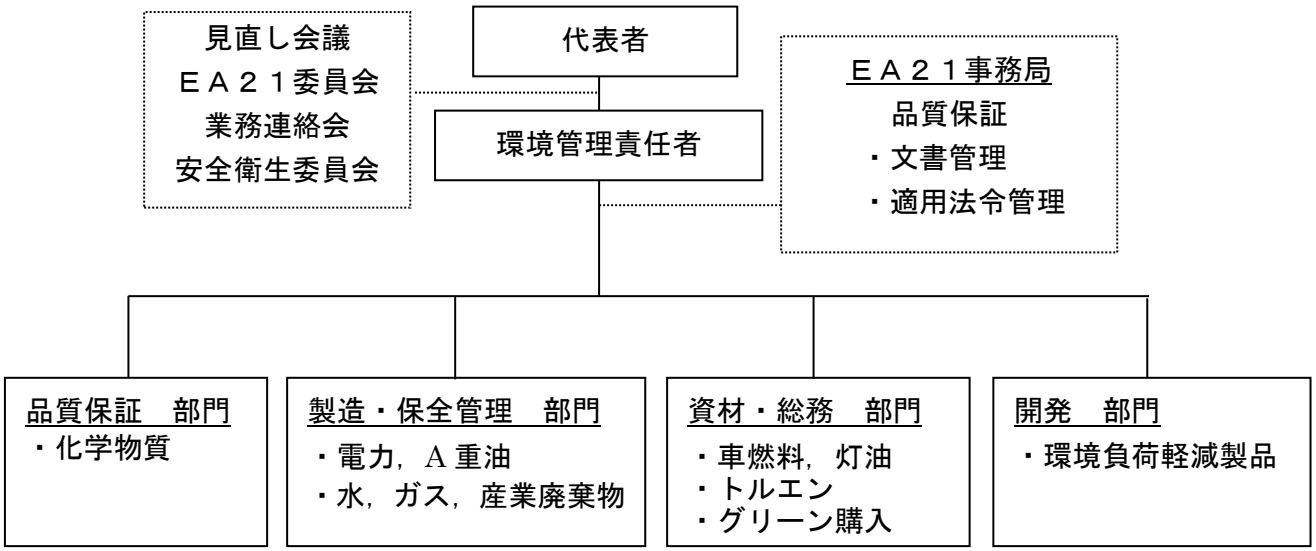
4-4. 化学物質排出量削減活動内容［担当部署：製造・保全管理］

有機溶剤ガスの大気排出量の削減
溶剤回収装置稼働の徹底
溶剤回収率の低下防止
塗料缶のフタ使用の徹底

4-5. 環境負荷軽減製品の開発活動内容［担当部署：開発］

新製品開発時、環境負荷に配慮した原料の使用を検討する
既存製品の慢性不良改善への設計変更取組み

福岡クロス工業㈱九州工場　ＥＡ２１実施体制



所　属	役割・責任・権限
代表者	全体統括、環境経営方針の設定、環境への取組を実施するための資源の準備、全体の評価と見直し
管理本部	全体の把握、環境経営システムを構築運用し、その実施状況を生産本部長に報告する
見直し会議	１回／年開催し、全体の評価と見直しを行う
ＥＡ２１委員会	４ヶ月毎に、環境目標の達成状況及び活動計画の実行状況を審議する
業務連絡会	毎週開催の業務連絡会において、環境活動に関わる課題の報告、確認を行う
ＥＡ２１事務局	ＥＡ２１文書及び記録類の作成・維持・管理
品質保証	化学物質の管理
製造・保全管理	製造部門の責任者、廃棄物の排出量、ガスの管理 電力、水、Ａ重油消費量の管理
資材・総務	車燃料（ガソリン、軽油)、灯油、トルエン消費量管理、グリーン購入の推進
開発	環境負荷軽減製品の開発

５．環境経営目標の実績

令和５年度（令和５年４月～令和６年３月）の目標における実績は以下の通りであった。

項　　目	単　位	目標の基準値	R5 年度目標	R5 年度実績	目標達成の確認
二酸化炭素排出量の削減	製品加工m当たり($kg\text{-}CO_2/m$)	0.170	0.165 以下 (3.0%以上減)	0.161 (5.0%減)	○
	総量($kg\text{-}CO_2$)	—	—	3,180,249	
	製品加工（m）	—	—	19,780,968	
電気使用量の削減	混練り量 kg 当り (kWh/kg)	6.23	6.04 以下 (3.0%以上減)	5.81 (6.8%減)	○
	電気使用量(kWh)	—	—	2,616,546	
	混練量(kg)	—	—	450,254	
重油使用量の削減	製品加工m当り （リットル/m）	0.0377	0.0366 以下 (3.0%以上減)	0.0356 (5.5%減)	○
	重油使用量（ﾘｯﾄﾙ）	—	—	704,000	
廃棄物排出量の削減 （廃プラ排出量）	製品加工m当たり （トン/１万m）	0.0950	0.0931 以下 (2.0%以上減)	0.111 (16.5%増)	△
	廃棄物排出量(トン)	—	—	218.9	
給水量の削減 （上水給水量）	勤務時間 8H 当たり (m^3/8hrs)	0.272	0.264 以下 (3.0%以上減)	0.248 (8.9%減)	○
	給水量(m^3)	—	—	5,654	
	勤務時間(hrs)	—	—	182,638	
化学物質排出量の削減 （有機溶剤ガスの大気排出量）	製品加工m当たり （トン/１万m）	0.193	0.187 以下 (3.0%以上減)	0.206 (6.3%増)	△
	化学物質排出量(トン)	—	—	406.5	
環境負荷軽減製品の開発 (新製品において環境負荷軽減品の開発)	—	—	環境負荷軽減品の設計変更の検討１件以上	１件	○

（※目標達成○、目標値より 20%未満の未達△、目標値より 20%以上の未達×）

６．環境経営計画の取組結果とその評価

6-1. 二酸化炭素排出量の削減

二酸化炭素排出量の削減は、年度目標の 3.0%削減に対し 5.0%減と年度目標を達成した。二酸化炭素排出量の 60.0%を占めるＡ重油は目標の 3.0%減に対し 5.5%減であり、二酸化炭素排出量の 30.4%を占める電気使用量は目標 3.0%減に対し 6.8%減であった。エアコンの省エネタイプへ更新に加え、屋根への遮熱塗料の塗装を一部エリアから各棟すべてに実施。エアコン負荷低減により夏場及び冬場の電気使用量削減となった。

6-2. 廃棄物排出量の削減

廃プラ排出量は、年度目標 2.0%削減に対し、16.5%増であり、年度目標は未達成であった。加工ロスの大きい新規製品のスポット受注に加え、輸出案件の受注増が要因として挙げられる。輸出向けはロス幅が多い傾向にあり、また、受注（輸出）の内訳では、単位質量の重い製品群の比率も増加傾向にあった。これらの要因が重なったものと考える。なお、年度目標（基準年度 R3 年）は、加工ロスが多い新規製品についての差引補

正を行ったものとしている。
分別・リサイクル化については、リサイクル業者、収集業者を調査しているが、周辺地域で見いだせていない。

6-3. 給水量の削減

上水給水量は、年度目標 3.0%の削減に対し 8.9%減と年度目標を達成した。
令和 3 年度の是正処置にて、クールクリンファンの稼働状況を指数に盛り込むとしており、令和 5 年度はデータ収集方法の見直し、クールクリンファン稼働状況を稼働箇所・時間に着目しデータ収集を行った。結果として上水量とファン稼働状況の連動性は見いだせなかった。突発的な使用量増加の主な要因は水漏れであり、早期発見が削減に繋がる。次年度よりメーター確認を 2 回／月に増やし、監視体制の強化を盛り込む事で令和 3 年度の是正処置とする。

6-4. 化学物質排出量の削減

有機溶剤ガスの大気排出量は、年度目標 3.0%削減に対し、6.3%増であり年度目標は未達成であった。受注の増加や回収溶剤を使用できない製品の加工に加え、回収溶剤が供給過多となり、溶剤の回収を一時的中断していた事が要因として挙げられる。
総合的な溶剤回収率は 60%弱であったが、例年に比べ若干低い数値となった。今後も回収率の監視を行い、定期的にコンデンサー清掃を実施し回収率の低下防止に努める。

6-5. 環境負荷軽減製品の開発

年度目標である環境負荷に配慮した原料使用検討及び慢性不良改善への設計変更検討合計 1 件以上に対し、合計 1 件と目標を達成できた。
環境負荷に配慮した原料使用検討は無かったが、慢性不良対策検討を 1 件実施した。

7．次年度の環境経営目標及び計画取組内容

当社は、3 ヵ年毎の計画であり、次年度は 3 カ年の初年度となる。目標の基準値は、令和 5 年度の実績値とし、基準年度より 1%減を目標とする。

計画の取組については、前年度の内容を継続する。

項　　目	単　位	基　準	目　　標		
		R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO_2/m	0.176	0.174 以下 (1.0%減)	0.172 以下 (2.0%減)	0.171 以下 (3.0%減)
廃棄物排出量の削減	トン/1 万m	0.111	0.110 以下 (1.0%減)	0.109 以下 (2.0%減)	0.108 以下 (3.0%減)
給水量の削減	m^3/8hrs	0.248	0.246 以下 (1.0%減)	0.243 以下 (2.0%減)	0.241 以下 (3.0%減)
化学物質排出量の削減	トン/1 万m	0.206	0.204 以下 (1.0%減)	0.202 以下 (2.0%減)	0.200 以下 (3.0%減)
環境負荷軽減製品の開発	―	―	環境負荷軽減品の設計変更の検討1件以上	環境負荷軽減品の設計変更の検討1件以上	環境負荷軽減品の設計変更の検討1件以上

①二酸化炭素排出量における電力の二酸化炭素排出係数は 2022 年度実績九州電力調整後排出係数「0.000475 t-CO_2/kWh」を使用した。
②廃棄物排出量削減の対象は、廃プラ（熱回収利用）とする。廃棄物排出量は、スポット生産の新規製品を差引した数値を基準とする。
③給水量の削減活動の対象は、上水とする。
④化学物質の削減の対象は、有機溶剤ガスの大気排出量とする。
⑤環境負荷軽減製品の開発は、環境負荷軽減製品への設計変更を検討した段階でのカウントとする。

8．環境関連法規等への違反、訴訟等の有無

環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。また、関係機関等からの違反の指摘、利害関係者からの訴訟や苦情もありませんでした。

○主な環境関連法規等の遵守状況

法規類	遵守状況
フロン排出抑制法	簡易点検の実施
廃棄物処理法	適正管理実施、報告書提出の実施
大気汚染防止法	設置届出の確認、VOC 測定及び報告書提出の実施
浄化槽法	自主点検及び法定検査実施
PRTR 法	排出量等の把握及び届出実施
消防法	適正管理の実施、点検、報告の実施
労働安全衛生法	適正管理、作業環境測定の実施

9．代表者による全体評価と見直し・指示

令和 5 年度は、新型コロナウイルスの第 5 類移行に伴い、新たな予防基準・指針に準拠した体制への移行を順次進め、引き続き従業員とその家族の安全、顧客への供給責任を果たす為、感染予防に努めた生産活動であった。

令和 5 年度の環境活動結果として、電気・重油使用量の削減による二酸化炭素排出量、給水量の削減目標を達成し、環境への取組みは適切に実施されていると判断される。今年度の環境活動は、これまでと同様に、安全第一を基本にメーカーとしての品質向上、

生産性向上、歩留り向上に関わる取組みを行い、省エネ、省資源につなげる。

当社の重点課題の 1 つである「省力化、省人化」への取組みにおいては、欠点検出装置の運用を開始しており、各品種の検知基準の設定を進め更なる活用に繋げていく。

化学物質排出量削減への取組においては、令和 6 年度に新たに溶剤回収装置導入を計画しており、排出量のデータ推移を注視していく。また、令和 3 年度に上水使用量の目標未達成に対する是正処置の一環として、クールクリーンファンの稼働状況についてデータ収集を行ってきたが、上水使用量とファン稼働状況の連動性は見いだせなかった。突発的な使用量増加の主な要因は水漏れであり、早期発見が削減／対策となる為、次年度よりメーター確認を 2 回／月に増やし、監視体制の強化を盛り込む事で対応する。

環境経営方針、環境経営目標及び環境経営計画、実施体制について変更の必要性はなく継続とする。

１０．地域社会との環境保全協同活動

地域美化運動として毎年工場周辺のゴミ収集と除草を行ってきた。今年度も令和 5 年 10 月の 4S 実践活動で、空き缶，空ビン等のゴミ収集と除草を行った。

以上